

第 3 回 大橋川周辺まちづくり検討委員会  
第 3 回 景観専門委員会

議 事 要 旨

【日時及び場所】

日時：平成 18 年 4 月 19 日（水）9：30～12：00

場所：ホテルセントノーム京都 平安の間

【出席委員】

大橋川周辺まちづくり検討委員会

島田委員長、門脇副委員長、布野副委員長、有光委員、飯野委員、泉委員、太田委員、  
岸井委員、木村委員、桑子委員、木幡委員、後藤委員、丸委員、皆美委員

景観専門委員会

布野委員長代理、松本委員、吉田委員

【議事次第】

開 会

挨拶（松江市助役）

（国土交通省出雲河川事務所長）

議 事

- 1．第 2 回大橋川周辺まちづくり検討委員会の結果について
- 2．大橋川周辺地域のまちづくりについて（意見交換）
- 3．作業部会について

その他

今後の日程等について

閉 会

【配布資料】

資料 1 第 2 回大橋川周辺まちづくり検討委員会議事要旨

資料 2 第 2 回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果

大橋川周辺地域のまちづくりに対する想い・意見「まとめ」

資料 3 第 2 回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果

大橋川周辺地域のまちづくりに対する想い・意見「意見一覧」

資料 4 第 2 回大橋川周辺まちづくり検討委員会が出された意見に関する参考資料

資料 5 作業部会について

【議事概要】

- 1．第 2 回大橋川周辺まちづくり検討委員会の結果について

・事務局より、第 2 回大橋川周辺まちづくり検討委員会の結果（資料 1～資料 3）について説明

## 2. 大橋川周辺地域のまちづくりについて（意見交換）

（第2回大橋川周辺まちづくり検討委員会 議事3と同様に、各委員が思い・意見等を付箋紙に書いて地図に貼り付けて発表し、各委員の共通認識を図るため意見交換を行った。）

- ・繊細さ、あいまいさ、余白などの松江の気質にあった節度のある整備が必要と思う。
- ・目立たない、奥ゆかしいといった言葉を基本方針に入れてはどうか。
- ・上流右岸は、鴨川の左岸のような形状で景観に配慮した護岸が望ましい。
- ・左岸の大橋から新大橋までの間は、河岸の道路は洪水時には冠水する低い護岸堤にする。
- ・橋北で尊重すべきは城、堀川、市街地。橋南では新しい都市の発展を考えていく必要がある。
- ・松江の風情の大きな要素である神社・仏閣を大切にする。
- ・出雲～松江～米子を一体的にとらえ、多様なシナリオを描いた上で、そのシナリオにどう寄与できるかといった視点でまちづくりを考える。
- ・水辺に降りられる階段を設ける。
- ・過去の歴史や文化を残すことも必要だが、新たな文化を創っていくことも必要。
- ・松江城、大山、嵩山などが見える視点場を設定した上で、景観法による景観規制を検討する。
- ・大橋川全域を景観法の景観形成地域(注1)に指定してはどうか。
- ・穴道湖周辺の高い建物を将来どうするかも考える必要がある。
- ・橋と建物が調和した整備を考える。
- ・船からの視点にも配慮した橋のデザインが必要である。
- ・西の夕日、東の大山という東西に広がった視点で松江を見るというのが重要なポイントである。
- ・水の音を新たに創出することを考えてはどうか。
- ・まちと水辺の一体感を重視して親水性を求める場所と、遊歩道や公園などの憩いの場所とを区分けして整備をする必要がある。
- ・水質を良くし、水辺からは常に水底が見えるようにする。
- ・水際にむやみに柵を設けない。
- ・人が寄り合う場所では、それぞれが居心地のいい空間を確保できるよう設計する。
- ・施設（ハード）を考える上では、人が集まるような仕掛け（ソフト）を創る必要がある。
- ・古いものを大切にするだけでなく、新しいものを加えて新しい歴史を作っていくという視点も大切である。
- ・世界に例のない斬新なデザインの堤防をハイテクを駆使してつくってはどうか。
- ・何もかも上流部でやろうとするのではなく、上・中・下流それぞれの特性をふまえ、バランスの取れた整備を考える必要がある。
- ・親水性の創出と洪水対策とは分けて考える。
- ・揖保川には地域防災としての「畳堤」(注2)がある。
- ・街並みに対する「哲学」と「ある種の合意」が重要、計画づくりには各年代層の意見集約が必要。

- ・長期的な展望に立ったまちづくりのゾーニングについて、市民合意を確立することが大切。
  - ・大橋・新大橋の架替えに伴う周辺商店街への経済的影響と工事後のまちづくりの展望を明確にしておく必要がある。
  - ・堂島川、道頓堀川では賑わいの演出、鴨川では歴史観をもった川らしさの創出が参考になった。
  - ・松江駅から北へ出た大橋川のところと白潟公園付近の舟溜まりのところは、水辺へのアプローチポイントとして、更には水上交通への結節点としてもう少し考えるべきでないか。
  - ・中州は中心市街地に隣接した農地であり、環境学習の視点も含めて、エコ農法(注3)など新しい農業の展開の可能性を探ってはどうか。
  - ・中州の水路を利用した生態系観察ルートの設定をしてはどうか。
  - ・中州は農地として残すべきかどうか、都市計画の中で検討してもらいたい。
  - ・中の島は可能であれば撤去し、広い水面として水上スポーツの世界大会、全国大会が開催できるようにし、観光と結びつけて地域活性化を図る。
  - ・中流右岸は河岸が直線的で生物多様性に欠けると思うので、生態系に配慮した変化のある河岸(エコトーン)にし、魚釣りや魚採りができるようにできないか。
  - ・中流右岸には道路が必要だと思う。
  - ・下流域から上流域までをつなぐサイクリングロードを作る。
  - ・宍道湖・中海全体を通したシナリオを考える上で、中海周辺地域の人たちの意見を聞きたい。
  - ・中州は、ニューヨークのセントラルパークのような広大な森林公園としたい。
  - ・第五大橋から松江の中心部に直接つながるハイウエーを作る。
- ・このような委員会の進行方法は他では実施していない。意見があれば申してほしい。

### 3. 作業部会について

- ・事務局より、作業部会について説明(資料5)

#### その他

- ・今後の日程等について
  - ・本日午後から作業部会を開催する。
  - ・5月17日午後から第4回景観専門委員会を開催する。
  - ・5月24日午前から委員対象の斐伊川水系の治水計画についての説明会を開催し、同日午後から作業部会を開催する。
  - ・7月5日午後から第4回大橋川周辺まちづくり検討委員会を開催する。

以上

(注1) 景観地区、景観計画区域等景観規制を行う地域。

(注2) 洪水時に堤防に壱をはめ込み、堤防を越えようとする水を防ぐ治水方法。

(注3) 化学肥料や農薬を使用しない自然との調和を図りながら行う農業。